２０２５年度

事 業 報 告 書

自 ２０２５年4月1日
至 ２０２６年3月３１日

公益財団法人
日本フラッグフットボール協会

１：小学校教師を対象とした「スタートブック」の配布

フラッグフットボールが持つ「すべての子どもが活躍できる」教育的理念を学校現場に広く普及させ、指導に不安を持つ教師を支援するため、フラッグフットボールの経験がない教師に向けた教材「フラッグフットボールスタートブック」を作成し、小学校教師および教育関係者へ向けて配布した。また、ホームページ上で公開した。冊子の「スタートブック」に関しては、1,000 部を無償にて提供した。

これにより、未経験の教員でも質の高い体育授業を展開できる基盤が整い、学校現場における導入のハードルを下げることに貢献した。

教師向けスタートブック

２：小学生向け副読本「作戦ブック」およびフラッグの製作と寄贈

授業を受ける小学生が、フラッグフットボールを理解しやすくし、作戦を考えるプロセスを通じて「主体的・対話的で深い学び」を促進することをねらいとして、子ども用補助教材「作戦ブック」を製作し、103,000 冊を全国の小学校へ寄贈した。

また、寄贈校 700 校のうち、450 校については作戦ブックに加えて、用具（フラッグ）を 40 名分同梱した。また、主に小規模校を対象とした 250 校については用具（フラッグ）を 20 名分同梱した。なお、当事業は（一財）日本宝くじ協会の助成を受けて実施した。

本事業を通じて、全国の学校現場における資材不足の解消と、戦術的思考力・協働性を育成する学習環境の整備に大きく寄与した。

寄贈したフラッグが使用されている様子

３：さくせんコンクールの開催

体育授業における戦術的思考や対話的な学びの成果を可視化・評価し、その教育的価値を社会に発信するため、株式会社ファミリーマートの協賛により、「ファミリーマート presents フラッグフットボール『さくせんコンクール』」としてリニューアル開催した。 全国の小学生から作戦図と体験作文を募集したところ、251 の作戦の応募があった。審査の結果、3 つの作戦を表彰した。

最優秀賞を受賞した佐賀市立大詫間小学校の取り組みは、TBS テレビ「news23」でも特集・放送され、多様な児童が輝けるフラッグフットボールの教育的魅力と実践事例を、教育関係者のみならず一般社会へも広く周知する成果を収めた。

４：世田谷区内小中学校への用具寄贈及び講師派遣

地域と連携した教育支援体制を構築し、児童生徒の体力向上と運動意欲の涵養を図るため、世田谷区市民活動支援事業により、東京都世田谷区内小中学校 10 校にフラッグフットボールのフラッグ・ボールの寄贈を行い、希望した学校には講師を派遣した。

本事業を通じて、地域の学校における継続的な体育指導体制の構築を支援し、教育現場の課題に直結した実践的なサポートを実現した。

５：子ども支援団体への用具寄贈

学校教育の枠を超え、多様な環境にある子どもたちにスポーツを通じた成長と自己肯定感向上の機会を提供するため、CBGM 子ども財団の助成により、全国の 20 の子どもを支援する団体へフラッグ・ボールの寄贈を行った。

本事業を通じて、スポーツに触れる機会の少ない子どもたちへの支援活動を強化し、

共生社会の実現に向けたフラッグフットボールの新たな教育的・社会的価値を示した。

６：イベントの開催および協力

指導者の指導力向上および、幅広い層への安全で教育的なスポーツ体験機会の創出を目指し、イベント、体験会、指導者講習会等の主催、共催、後援、協力を行った。

〇主なイベント

- 学校への講師派遣（秦野市立北小学校、中央区立泰明小学校）
- 教員講習会への講師派遣（千葉県教育研究会・松戸支会中学校体育部会）
- ハドルボウル 2026（大学 OB 等）
- あいちトップアスリートアカデミー2025 ジュニア合宿（フラッグフットボール）指導（愛知県教育委員会主催）

以上の取り組みにより、各教育委員会や学校関係者とのネットワークを強化し、次世代の指導者育成と、フラッグフットボールの教育的意義に対する理解を促進した。

７：用具の認定

安全で適切な教育環境を担保するため、各メーカーが販売するフラッグ、ボールの認定を行い、教育現場が安心して使用できる用具の基準を示し、安全確保に寄与した。

８：ＷＥＢサイトおよびＳＮＳの運営

フラッグフットボールの教育的価値や最新の普及活動を迅速に発信するため、WEB サイトや SNS、プレスリリースによって最新情報やニュースの発信を行い、全国の教育関係者等への継続的な情報提供チャネルを確保した。

９：フラッグフットボールに関する取材や問い合わせの対応

メディア等を通じてフラッグフットボールの理念を正しく啓発するため、新聞などの広報誌の取材や各種問い合わせに対応し、フラッグフットボールについての情報、協会の活動についての情報を提供した。これによって、フラッグフットボールの社会的な認知度と信頼性の向上に貢献した。

以上